

<報道関係各位>

慶應義塾大学医学部眼科

「糖尿病網膜症の網膜神経障害をルテインが予防する可能性」

糖尿病になると、明らかな網膜症(眼底出血など)が無くても、徐々に網膜の機能が低下して、視機能に影響を及ぼすことが知られている。しかし、今のところ、この初期段階の変化に対しては特に治療法がない。眼科では、既に進行期にある場合は、必要に応じてレーザー治療や手術治療を適応とするが、初期段階では血糖のコントロールを促し、生活指導をするだけにとどまっているのが現状である。

これに対し、自己判断でサプリメントを飲んでいる患者もいる。しかし、その有効性に関しては、動物実験を含めてほとんど報告が無く、未知であった。そして、多くの眼科医は、科学的根拠がないことを理由にサプリメントの摂取を勧めることはしていない。

今回、慶應義塾大学医学部眼科学教室、坪田一男教授のもとで、網膜細胞生物学研究室の小沢洋子専任講師と佐々木真理子助教らが糖尿病モデルマウスを用いて実験し、ルテインを継続的に摂取することで神経保護効果を得られ、糖尿病網膜症の網膜神経障害・視機能障害を予防しうることを、分子レベルで解析し、糖尿病専門誌“Diabetologia”に発表した。

糖尿病を患っていても、いつまでも良好な視機能を保ちたい気持ちはみな同じである。ルテインの摂取が視機能に貢献する可能性が、今、動物実験で示された。上述のメンバーは、この結果を基に、ヒトでも効果が得られるか、研究を続けている。長寿人口の増加している現代において、良好な Quality of Vision (QOV; 視機能の質)を保つための新しい治療法の可能性にむけての第一歩が示された。

<本発表資料のお問い合わせ先>

慶應義塾大学医学部眼科学教室 (小沢 洋子)

Tel: 03-3353-1211 (内線: 63919)